

「多様な意見 政治反映を」

「女性リーダー」シンポ

春日市

政治のジェンダー平等を考えるシンポジウムが10日、福岡県春日市のクローバープラザで開かれた。「なぜもつと女性リーダーが必要か」をテーマに、議会で男性議員が多数を占める福岡と佐賀の女性議員が「政界のマイノリティー」としての経験を紹介。政策に多様な意見を反映させるために、男女比の是止の必要性を訴えた。

女性の政治リーダーを養成する一般社団法人「パリ

ジェンダー その先へ

テ・アカデミー」が主催し約100人が参加した。福岡県飯塚市議の金子加代さん(58)は昨年、男性市議から「セーラー服を着てしゃべれば…」と議会でハラスメント発言を受けた。金子さんは「性別の偏りによる、

無自覚の差別や偏見を感じる」と指摘した。世界経済フォーラム(WEF)のジェンダー・ギャップ指数で日本は昨年14



三浦まり上智大教授(右)の質問に答える3人の議員
11日午前、福岡県春日市

6カ国中125位、政治分野で138位と低水準に沈む。ただ昨年、福岡県議選で過去最多の13人の女性が当選するなど変化も。同県議の後藤香織さん(44)は、幼い子と一緒に入れる「親子傍聴席」が昨年設置された例を紹介。「傍聴者が多様になれば男性議員の気付きも増える」と述べ、議会は見過ごされている社会課題を可視化する場にもなるとの見解を示した。

アカデミー共同代表の三浦まり上智大教授(56)は「政治の女性参加は長らく『東高西低』だったが、九州でも女性議員が増えて良い風が吹き始めている」と分析。地方政治を支えるネットワークを構築したいと語った。(川口史帆)